

## R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	家庭・フードデザイン (普・専)	単位数	2	担当者	橋爪
---	----	-------	---------------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

フードデザイン（実教出版）
---------------

### 2、科目の目標

<p>栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を総合的に習得する。 自立した生活をするための食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。</p>
---

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲		
前 期	4月	座学	食事の意義と役割 食を取り巻く現状 栄養素の働きと消化吸収の仕組み を理解する調理実習・実験 調理理論	35	既習範囲		
	5月	・食生活と健康 ・健康に必要な栄養素					
	6月	・調理の基本 ・道具の扱い					
	7月	基礎調理 ・調理とおいしさ			調理の目的 非加熱操作・加熱操作 調味段階 日常食・供応食・行事食について	35	既習範囲
	8月	・調理操作					
	9月	・調味操作					
9月	・献立作成						
後 期	10月	・食品の選択と調理 ・食品の成分と変化	食品の特徴と性質を理解する 食事計画について理解する 社会人講師による授業 調理実習・実験 調理理論 教材視聴 料理様式と献立、食文化を理解する 調理実習・実験 調理理論	35	既習範囲		
	11月	・食品の加工 ・郷土食と行事食 ・料理様式					
	12月	・まとめ			既習範囲		
	1月						
	2月						
	3月						

### 4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	食に関わる基礎基本の技術に加え、それ以上の技術が身についているか。食生活に関する幅広い知識を習得することができているか	定期考査・提出物（作品、レポート、宿題など）・実習を含めた授業への取り組みを、総合的に判断する。
思考・判断・表現	食生活に関する課題を見つけて、解決に向けて考え、表現することができるか。	定期考査・提出物（作品、レポート、宿題など）・実習を含めた授業への取り組み、発表などを、総合的に判断する。
主体的に学習に取り組む態度	食生活全般について高い関心を持ち、自ら行動できる意欲や姿勢があるか	定期考査・提出物（作品、レポート、宿題など）・実習を含めた授業への取り組みや、授業態度などを総合的に判断する。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

<p>(1) 教科書、プリントを主として学習を進める。実習実験の際には身だしなみを整えて安全面、衛生面に気をつけて取り組む。                  (2) プリントや資料はファイルに整理して各自管理する。                  (3) 実習への取り組みや出来栄からも学習内容の定着を評価する。</p>
--

## R7 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	家庭・服飾文化(普・森・イ)	単位数	2	担当者	橋爪
---	----	-------	----------------	-----	---	-----	----

### 1. 教科書・副教材

服飾文化（文部科学省）
-------------

### 2. 科目の目標

家庭基礎・家庭総合で学んだ内容をもとに、服飾の変遷と文化、着装などに関する知識と技術を習得するとともに、服飾文化の伝承と創造に役立てる能力と態度を身につける。
---

### 3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前 期	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服飾文化を学ぶにあたり</li> <li>・ミシンの使い方</li> </ul>	35	作品提出	
	5月				
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の服飾と暮らしの背景</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習目標や内容、方法を理解する。</li> <li>・ミシンの基本的な使い方に加え、 用具や糸等に関する学習する。</li> </ul>	作品提出
	7月				
	8月				
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋の服飾と暮らしの背景</li> <li>・世界の服飾と暮らしの背景</li> <li>・服飾文化の創造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統行事や季節などの服飾の関わりや、郷土に根ざした文化について学ぶ。</li> </ul>	35	作品提出	
10月					
11月					
12月					
1月					
2月					
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣生活の環境への影響を知り、新たな服飾文化の創造について考える。</li> <li>・これまでの学習と関わらせて課題を設定し取り組む。</li> </ul>	35	作品提出		
12月					
後 期	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の服飾や伝統工芸から暮らしとのつながりを通じた文化を学ぶ。</li> </ul>	35	作品提出	
	2月				
	3月				

### 4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技術を身につけることができたか	提出物（作品・レポートなど）を総合的に判断する。
思考・判断・表現	内容から課題を見つけ、解決に向けて思考判断し、それを自分なりに表現することができたか	提出物（作品・レポートなど）、発表などを総合的に判断する。
主体的に学習に取り組む態度	内容に関心を持ち、主体的に取り組む姿勢が見られるか	提出物（作品・レポート・宿題など）、授業態度（出欠、授業や実習への取り組み）などを総合的に判断する。

### 5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)道具や材料の取り扱いに注意して、安全に留意しましょう。</li> <li>(2)授業で配布されるプリントはファイルに整理して保管しておくこと。</li> <li>(3)作品の出来栄とともに、提出状況と制作に対する意欲や態度、創意工夫を重視します。</li> <li>(4)内容は、進度や教材の状態により変更する場合があります。</li> </ul>
--